

研究論文

近代日蓮宗における女性及び団体の諸相

森下 恵王

一、はじめに

現代宗教研究所においては、令和五年三月に、日蓮宗全女性教師アンケートの報告書を刊行した。報告書の中で、近現代の女性教師関連の動向を年表として整理して掲載した。

年月	内容
明治六年(一八七三)一月二日	太政官布告にて尼僧の蓄髪・肉食・婚姻・還俗の自由を達する
大正八年(一九一九)四月	深見耀宏、京都松ヶ崎涌泉寺尼衆修道院(後の尼衆宗学林)を創設。
昭和二年(一九三七)八月一日	信行道場が初めて開設される。
昭和四年(一九三九)一月中旬	信行道場の開設以来初めて、尼僧信行道場(道場生一七名)が身延山にて開設される。
昭和七年(一九四二)一月	宗会にて祖山学院を身延山専門学校と改め、教師養成機関として日蓮宗立の池上宗学林・光山学院・尼衆学林を設立。
昭和二〇年(一九四五)八月一日	第二次世界大戦終結。
昭和二年(一九四五)九月一日	普通試験合格尼僧の第九期信行道場行道場、身延山にて開設される(二三日)
昭和五年(一九五〇)	寺族救済を目的とした補教制度が創設される。

昭和二五年（一九五〇）六月	東京都北部に寺庭婦人会が組織される。
昭和二六年（一九五二）	曹洞宗尼僧団結推進に刺激を受けた、梶山智孝・谷山善妙両師が全国の尼僧と連絡を取り尼僧法団結成の準備に取りかかると共に、身延山より丈六堂と無縁墓地給仕を委託される。
昭和二六年（一九五二）五月一日	東京全管区の寺庭婦人を対象とした「東京日蓮宗寺庭婦人会」が谷中一乗寺において結成される。
昭和二六年（一九五二）五月二七日	補教講習会、身延山にて開設される。
昭和二六年（一九五二）八月二一日	補教講習会（有髪の尼僧）身延山信行道場にて一週間の予定で開催される。入場者五六名
昭和二六年（一九五二）一〇月六・七日	全国布教師会会長議にて身延山法主の経験談中「真宗には坊守会というのが出来て居るそうです。つまり寺庭婦人会でありまして、よく訓練が出来て居りまして、住職はお経を読む、妻は掃除を受持つという風にして法城の護持につとめて居ります。」と語る。
昭和二六年（一九五二）一〇月二九日	全国より各宗の尼僧三〇〇名が宗旨宗派を越えて参加し、世界永世平和記念万国殉難精霊追悼法要を日比谷公会堂で挙行。全日本仏教尼僧法団が結成される。
昭和二七年（一九五二年）七月二九日	日蓮宗尼僧法団の結成準備会を東京谷中瑞輪寺にて開く。
昭和二七年（一九五二年）九月二五日	東京日蓮宗寺庭婦人会代表として、副会長長谷川環氏が、婦人協議会からの推薦を経て、築地本願寺で開催された「世界仏教徒会議」出席する。（～三〇日）
昭和二七年（一九五二）一〇月二八日	梶山智孝師、谷川善妙師ら有志尼僧が中心となって日蓮宗尼僧法団の結成式（結団式）を身延山久遠寺にてあげる。
昭和二八年（一九五三）九月二八日	「補教講習の感想」受講生 佐々木教光・樺山妙舜
昭和三〇年（一九五五）	僧階上の「補教」の取扱いが廃止された（補教信行道場は継続）。
昭和三一年（一九五六）一〇月一日	日蓮宗尼僧法団全国組織結成奉告式が増田日遠管長導師の下、身延山本師堂にて執り行われる。
昭和三七年（一九六二）三月七日	尼僧法団関東支部、日蓮宗尼衆学林復興托鉢を東京新宿駅にて行う。
昭和四四年（一九六九）	梶山順弘師、尼僧初の開教師（国際布教師）となり、ヒ口教会に赴任する。
昭和四四年（一九六九）一二月七日	大内妙信師、女性としては初の宗会議員に選出される（以降二期継続）昭和五二年一二月六日）。

昭和四七年（一九七二）六月一八日	日蓮宗尼僧法団、尼衆寮を身延山丈六堂に完成し、落慶入仏式並びに日蓮宗尼僧法団創立満二〇周年祝賀会を開く。
昭和四九年（一九七四）三月五日	日蓮宗と中山妙宗の合同復帰にともなう三五〇名の教師認証式が中山法華経寺にてあげられる。
昭和五〇年（一九七五）五月二八日	日蓮宗尼衆宗学林、京都市松ヶ崎涌泉寺に再興され、三〇年ぶりに開校式をあげる。
昭和五一年（一九七六）三月	第三五宗会にて、特別信行道場入場費が修正可決される。これより、尼僧信行道場は特別信行道場と改称される。以降、補教信行道場と隔年開設となる。
昭和五三年（一九七八）五月二七日	特別信行道場が開設される。
昭和五七年（一九八二）一〇月	日蓮宗尼僧法団結成三十周年、記念写真集「真尼道」発刊。
平成一一年（一九九九）六月二三日	男女共同参画社会基本法が施行される。
平成一四年（二〇〇二）	補教信行道場が平成一三年度開催を最後として廃止される。
平成一四年（二〇〇二）一〇月	現代宗教研究所にて女性教師アンケートが実施される。
平成一六年（二〇〇四）三月三一日	日蓮宗全女性教師アンケート報告書（現代宗教研究所）が発行される。
平成一七年（二〇〇五）四月二六日	全国日蓮宗女性教師の会、宗務院で代表者会議を開き、発足。
平成二二年（二〇〇九）七月二四日	最上稲荷教が日蓮宗に復帰し、日蓮宗所属辞令交付式が宗務院で行われる。総本山妙教寺と七つの被包括法人及び五八人の僧侶が日蓮宗の所屬となる。
平成二三年（二〇一一）	特別信行道場が第二期信行道場に改称される。
平成二五年（二〇一三）一月二七日	松野蓮香師が大内妙信師に続き三六年ぶりに女性としては二人目の宗会議員に選出される（以降二期継続し令和三年二月六日）。
平成三一年（二〇一九）一月二九日	田邊木蓮師が参与推薦（什師会）にて、女性として三人目の宗会議員に選出される。（現在（二期目）に至る）
平成三二年（二〇一九）五月二八日	日蓮宗尼衆宗学林開校一〇〇周年記念法要が執り行われる
令和二年（二〇二〇）三月一日	身延山大学女子寮「なんてん寮」が創設される。

しかし、日蓮宗尼僧法団などについて、関係者の高齢化や、先行研究などの資料が僅少であることにより、情報の追跡が困難であった。

今後、こうした事情を改めて書き留めなければ、先師先達の事績が正確に把握されず、また後に調査を行う際にも手掛かりそのものが散逸するおそれがある。

そうした課題から、より実情に深く迫るため、

○令和五年二月二十日 身延山久遠寺なんてん寮・丈六堂

○令和五年五月十七日 尼僧法団（常説寺・身延山尼別院）

○令和五年七月十・十一日 尼衆宗学林・村雲瑞龍寺

の調査を実施した。

本発表は、当該調査の報告として、先に年表に記載した中から、特に戦後を中心とした尼僧法団などの事績や現状を概観し、書き留めるための足掛かりとしたい。

二、瑞龍院日秀と村雲瑞龍寺

まず、日蓮聖人滅後、門下における女性出家者として最初にその名前を見ることができなのが、瑞龍院日秀上人^二（一五九六—一六二五）である。^三

瑞龍院日秀上人（羽柴智の方、豊臣秀吉姉、秀次母）は、文禄五年（一五九六）正月、本国寺十六代日禪上人について得度。そして同年十月一五日、自刃した秀次の菩提を弔うため、後陽成天皇から京都嵯峨の村雲の寺地と「瑞龍寺」の寺号・寺領千石・菊花御紋・紫衣を賜り、寺を創建。寺格は黒御所（『新編 日蓮宗年表』並びに『寺院大鑑』）。瑞龍寺は、宗門唯一の尼門跡寺院であり、「村雲御所」という別称が用いられている。^四

「村雲御所」「尼門跡」の使用については、明治四年六月十七日太政官布告「今般御改正に付仁和寺大覚寺等を始め御所号、門跡号、院家、院室等の名称悉皆被廃止」を以て、内々の使用となるが、明治二十一年以降は「御由緒寺院」として、門跡と同様の待遇を受ける。

瑞龍寺は現在、宗制上は「由緒寺院」に含まれているが、それと「御由緒寺院」とは本来位置付けが異なるものであり、現在も寺門永統のため、天皇陛下より御下賜金を受けている。

瑞龍寺の歴代は以下の通りである。^五

開山 瑞龍院日秀上人（一五九六～一六二五）…本国寺十六世究竟院日禎上人について得度。秀次生母。

二世 瑞圓院日怡上人（一六四一～一六六四）…本国寺十七世鷲峯院日桓上人について得度。父は九条太閤幸家。

三世 瑞照院日通上人（一六六四～一六七二）…本国寺十八世乘體院日運上人について得度。実父は二条撰政康道。

九条兼晴の猶子となる。

四世 瑞法院日壽上人（一六七二～一六九一）…善正寺九世養法院日成上人について得度。実父は鷹司教平。九条兼晴の猶子となる。

五世 瑞現院日顕上人…瑞法院御附弟の約束後、未得度にて元禄三年（一六九〇）薨去、瑞法院日壽上人の命により加歴。実父は鷹司房輔。

六世 瑞應院日慈上人（一七一三～一七一六）…本圀寺二十三世忍稱院日宣上人について得度。実父は鷹司兼熙。九条撰政輔実の猶子となる。

七世 瑞妙院日護上人（一七二四～一七四六）…本圀寺二十六世了義院日達上人について得度。実父は二条関白綱平。九条輔実の猶子となる。

八世 常孝院日照上人（一七六二～一七七八）…本圀寺三十世體智院日誠上人について得度。実父は有栖川音仁親王。
九条尚実の猶子となる。

九世 瑞正文院日尊上人（一八一六～一八六八）…本圀寺三十五世龍興院日陵上人について得度。実父は伏見貞敬親王。
王。九条輔嗣の猶子となる。天明の大火による焼失後在位し復興に功績あり中興と称えられている。

十世 瑞法光院日榮上人（一八六二～一九二〇）…九世瑞正文院日尊上人について得度。実父は伏見邦家親王。九条尚忠の猶子となる。

十一世 瑞珠院日浄上人（一九二〇～一九六二）…十世瑞法光院日榮上人について得度。実父は仙石政敬。九条道実の養子となる。

十二世 瑞興院日英上人（一九六八～一九八八）…伯爵 小笠原長幹の五女。

十三世 瑞華院日風上人（一九八八～二〇〇二）…伯爵 小笠原長幹の養女。

十四世 瑞妙院日澄上人（二〇〇三～二〇一一）…啓運山最妙寺（大阪府枚方市）六世。

十五世 瑞仙院日英上人（二〇一一～二〇一九）…啓運山最妙寺（大阪府枚方市）七世。

十六世 瑞心院日郁上人（二〇二二～現董）…光蓮山長久寺（京都府南丹市）歴世。藤原秀郷の末裔

……
歴代をみると、その多くが九条家（藤原北家の嫡流）に入籍していることがわかる。

また、明治三九年（一九〇六）に、瑞龍寺十世日榮上人を総裁とし、東京小伝馬町において発会した「村雲婦人会」も、次第に発展して全国的規模のものとなる勢いであった。

三、「尼衆修道院（尼衆学林）の創設から休校

大正八年（一九一九）四月八日、瑞龍寺十世日榮上人の代に、後に第十一世となる瑞珠院日浄上人の新門主御得度記念として、京都松ヶ崎涌泉寺に「尼衆修道院」が創設される。^六

尼衆修道院では、尼僧の養成を行っていたが、戦前は文部省認可の学校法人であり、修学期間が四年で、国語、算数、英語などの一般教養もあり、普通科や高等科があった。

そして、昭和十七年に宗立の尼衆学林となり、年間数名十名ほどの在籍があった。

途中で尼衆学林と名称を変更したり、場所を村雲瑞龍寺や本圀寺に移転しながら運営していたが、戦争の影響により、食糧難など、運営の困難や、それを受けた宗門の方針により、地方の学林の閉林が進んでいった。

そのような中で、尼衆学林はやむを得ず、昭和二十九年度をもって閉林ではなく「休校」の措置を取ることとなる。

四、「村雲問題」と移転

しかし、戦後に瑞龍寺を中心として宗門を揺るがす事件が起こる。昭和三十四年（一九五九）十一月三十日、十一世日浄上人による日蓮宗宛の宗門離脱通告に端を発する、いわゆる「村雲問題」^七である。

この問題は、宗門離脱通告の裏で、戦後、財政的に困窮していた瑞龍寺の全財産が抵当物件となり、その代物弁済期限が切迫していた事実が判明した出来事である。

宗務当局が、その解決をはかるため、急遽日浄上人を罷免し、代表役員を立てて代物弁済期限の二日前に防止した。紆余曲折ありながらも、宗務当局は事態を收拾するため、日浄上人との和解を成立させ、これに基づき西武鉄道と瑞龍寺の移転再建を根幹とする土地売買が契約された。

この売買契約により、債務整理などと共に、昭和三十七年（一九六二）十二月、瑞龍寺を現在の近江八幡（秀次の居城であった八幡山城跡地）に移転することになるが、日浄上人は同年、移転した瑞龍寺を見ることなく遷化している。

五、日蓮宗尼僧法団の成立

そうした戦後の厳しい情勢の中、少し時を遡り、昭和二十二年（一九四五）、戦後第一回となる第九期（尼僧）信行道場（沖原竜進主任）が開設されている。入場者六十名で、戦後の食糧難等の事情により五日間の開設であった。そこへ、書記であった梶山智孝上人が、尼僧の地位向上と、村雲瑞龍寺の復興をやり遂げようとの願いの激を飛ばし、「尼僧聯盟」の名の下に全員が血判で団結を誓ったことが記録されている。

梶山智孝上人（一九〇八―一九八五）は、昭和十四年、馬田行啓上人につき得度し、昭和十七年、立正大学宗教科を卒業する。東京小伝馬町にあった村雲別院に給仕しつつ通学していた。

昭和十九年に、山梨県常説寺住職となり、昭和二十二年、戦後第一回の第九期信行道場に書記として携わる。昭和四十九年には尼僧初の声明師となっている。

梶山智孝上人が初代幹部でもあった「全日本佛教尼僧法団」とも交流を深め、昭和二十七年（一九五二）十月に「尼僧法団」として結団式、昭和三十一年（一九五六）には身延で結成式を行っている。

尼僧法団の理念は、

団結 「異体同心なれば万事を成じ団体異心なれば諸事叶う事なし。」の聖訓を体し個から連帯への転向を、忍耐ではない合掌行によって成就する。（小我を捨て大我につく。）

向上 一部の人を除いて社会的にも個人的にも尼僧の地位は余りにも低いという現実立ち向かって、内側からの体

廿歲

削髮受度着三衣
新叙僧位入法海
慎勵二道住三軌
勿苟傲放逸懈怠
遊戲雜談是蓄盜
刊養名聞即醜穢
胸中若有塵埃起
苦切自責深憾悔
當銘吾祖恩難忘
莫忘先師教節
護惜建立苦勸嚴
捨身弘通遺蹤烈
更思四恩最重厚
不知之殆類禽獸
又託同心水魚誠
亦布洪願由此就
汝等應棄二乘心
佛子須懷菩薩志
生涯行在勤難勒
念、聽持戒法畧

法団で読み上げられていたという「箴（しん）」

質改善、真の出家たる自覚の喚起、信念教養に努め、時代を、社会を正しく把握して、真に人々の心の依拠になり得る事。

布教 法華経の信仰は給仕に始まって自行化他である。正しく法を知るとは、自己のみならず、即ち他をも感ぜしめ、奮起せしめ、行動せしめる謂である。共に実践することにより、また自らの信仰も深められ、確信の度を増し、法悦を味わう事が出来る。に見ることが出来る。

様々な目的が掲げられているが、団員を惹きつけたのは、尼僧の地位向上であり、当時、「雑仕尼」というほど扱いの悪かった尼僧の地位を向上するには、尼僧自身が男僧に負けない存在にならなくてはいけないと梶山智孝上人は呼びかけており、法団内での研修なども多く行っていた。

団員の条件は、信行道場修了の剃髮尼であることとされている。最盛期には三八〇名ほどが入団し、尼衆学林の出身者も多く入団している。

● 尼僧法団の事業

尼僧法団の行っていた様々な事業のなかで、身延山無縁墓碑の整備・回向が特筆して挙げられる。元々身延山に散在していた無縁墓碑が、当時、清水房の周辺にまとめ置かれていた。清水房住職の内野日運上人に相談された梶山智孝上人は、法団として、約三千六百基の墓碑を洗い清め、錦ノ森に並べて回向する事業（三泊四日で、月に一、二回ほど）を行った。

昭和二十七年（一九五二）、錦ノ森無縁仏の整備の功績を認められ、身延山より、錦ノ森



錦ノ森の無縁墓碑

丈六堂の管理を任せられ、尼僧法団の本部が丈六堂に設置されている。

老朽化した家や庫裡を取り壊し、プレハブの庫裡や元信行道場の古材を使って尼僧法団本部の本堂や庫裏、講師室、尼衆寮を建てるなどしており、尼僧専門道場として、(一)正しい唱題行の修練、(二)法要講習と布教講習、(三)身上相談、(四)尼僧養成(身延山高校並びに大学、通学の寮)、(五)宗門の信行道場終了後の法器の資質向上機関として行学研修^九をしていた。その尼衆寮で給仕をしつつ、身延山高校などに通う学生もいた。

また、尼僧法団は、社会活動や慰霊活動も行っており、主立ったものでも、

昭和二十八年 托鉢を行い浄財を福祉施設に贈る

昭和三十九年 全日本佛教尼僧法団主催の沖繩慰霊

団に参加

昭和四十一年 ベトナム難民孤児慰問

昭和四十一年 山梨県民会館にて世界大戦彼我戦没

者慰霊法要

昭和四十二年 足和田村の慰霊

昭和四十六、四十七年 元寇殉難者追悼法要

昭和四十八年 安房自然村にて世界大戦彼我の霊追悼法要

昭和四十九年 日蓮宗主催で元寇七百年追悼会

昭和四十九年 沖繩慰霊行脚

昭和五十三年 ハワイ慰霊行脚

昭和六十一年 八丈島で流刑者供養

平成 元年 日航機富士山麓墜落及び中東湾岸戦争犠牲者追悼法要

.....
このように、現在にも行われているような社会活動・慰霊活動も含め、枚挙に暇がない。

● 団員たちの飛躍

尼僧法団には尼衆宗学林出身者なども含め多くの団員が所属し、活躍の場を広げていた。

尼僧法団の京都支部長であった大内妙信上人（尼衆宗学林第一八期卒業、京都府浄妙庵）は二期続けて宗会議員として当選し、尼衆宗学林復興の功績もあり、二期目は最高得票で当選している。

また、梶山智孝上人の弟子である梶山順弘上人は尼僧の開教師一号として、ハワイに赴任している。

そして、尼僧法団も、初期からの団員である谷川善妙上人（師匠は増田日遠、尼衆宗学林第二四期卒業、山梨県身延山尼別院）が結成三十周年記念式典にて二代目団長となり、受け継がれることとなった。

六、村雲瑞龍寺と尼衆学林の復興支援

尼僧法団の前身である「尼僧聯盟」が結成された目的の一つが、瑞龍寺の復興であった。学生時代、村雲別院に住むなど瑞龍寺と縁のあったであろう団長の梶山智孝上人と、同様に尼衆学林出身の団員たちが、その復興に尽力し、実現したことに触れたい。

●村雲瑞龍寺の復興支援

昭和三十六年に、危機的状况にあった村雲瑞龍寺を宗務当局より梶山智孝上人に対し尼僧法団を率いて内部の運営に当たるように要請があったが梶山智孝上人は固辞したとされる。^{一〇}

一方で佛像を奉納したり、寺外にあった村雲の宝物を団員の拠出金によって買い戻し納めたり、法団による瑞龍寺での清掃奉仕などの支援は行っていた。

昭和四十年に、宗務当局より小笠原長幹子爵の娘、松子を門跡として迎えたいとの話があり、法団は信行道場入場を条件とするよう伝えた。

そして、昭和四十三年、信行道場を終えた小笠原日英上人が瑞龍寺十二世として入寺する。

●尼衆学林の復興支援

昭和三十七年、尼僧法団は尼衆学林復興托鉢を行っている。

宗会議員・尼僧法団京都支部長であった尼僧法団の大内妙信上人や、大内上人をはじめとする京都尼僧の会「清和会」と連携し、昭和五十年、実に休校した昭和二十九年から二十一年を経て、「尼衆宗学林」として復興するに至っ



現在の錦ノ森の丈六堂



梶山が住職を務めた常説寺

ている。結果を見れば、昭和二十九年に「閉林」ではなく「休校」の措置を取ったことは、この復興への道筋を途絶えさせなかった措置といえよう。

七、現在の諸相

令和五年度に実施した調査では、各団体の現在の状況についても垣間見ることができるので、端的に触れたい。

● 尼僧法団

現在、尼僧法団について情報の追跡を行うのは、関係者の高齢化などの事情により困難であるのは、冒頭に述べた通りである。

令和五年五月十七日の調査においては、現在も団員である室住蓮妙上人に聞き取りを行った。室住蓮妙上人は、山梨県安立寺住職であるが、室住一妙上人の孫嫁で、弟子となる。

三十代の頃、師僧である室住一妙上人が尼僧法団に講義のため通っていた縁で、会合などに出席するなど、法団と関わりを持ち、現在も尼僧法団の団員であるが、現在では、他に活動できている団員もいないのではないかと語る。

尼僧法団自体も、三代目団長の法華真學上人（福井県妙永寺）が遷化した後、団員の高齢化により活動が困難になり、実質的に休止状態となっている。

一方で、尼僧法団の本部があった丈六堂と無縁墓碑は変わらず護持されている

が、管理をしていた尼僧法団は、尼僧法団結成五十周年の節目の法要にて、丈六堂を身延山に返還している。

また、梶山智孝上人が住職を務めた山梨県常説寺や、二代目団長であった谷川善妙上人が住職を務めていた身延山尼別院にも赴き、当時の様子とともに、現在も変わらず護持されている様子を伺うことができた。

●村雲瑞龍寺

近年まで境内建物が荒廃していたが、現董の詫間貫首や執事が中心となり整備を進め、美しい境内建物が備えられ、門前の八幡山ロープウェイ（近江鉄道）とも連携をとることで、参拝者も多く訪れる寺院となっている。

入寺式では、女性教師の会が式衆を勤めるなど、多くの女性教師にも支えられている。

●尼衆宗学林

尼衆宗学林は、現在は松ヶ崎涌泉寺にて養成を行っている。

令和五年調査時は二名（入寮生一名、聴講生一名）が在籍しており、護国寺に林生が赴いたり、他の講師が宗学林の寮に赴いて授業を行っている。卒



現在の村雲瑞龍寺



なんてん寮の法要

業者は乙種試験と僧道林が免除される。

大正十二年（尼衆修道院）から平成三十一年（尼衆宗学林）までに一八八名が卒業し、一〇名ほどが聴講生として在籍した。

● なんてん寮

現在、尼僧法団の管理していた尼衆寮は運営されていないが、一方で、身延山において近年新たに、唯一の女子寮となる「なんてん寮」が創設された。

「なんてん寮」は、令和二（二〇二〇）年三月から創設され、身延山大学に入学しながら給仕する在院生や、半年間の僧道実修生（教師・沙弥）の受け入れ・指導を行っている。

現状、まだあまり周知されていないとのことであるが、短期入寮など幅広く需要に対応したいとのことである。尼衆宗学林の卒業生も在籍し、久遠寺朝勤において声明の発音なども任されたり、外国人の僧道実修生も入寮しており、取り組みが徐々に結実してきている。

八、おわりに

以上のように、村雲瑞龍寺、尼僧法団、尼衆宗学林などを中心として近代の女性や団体の動向を追った。

当時の尼僧たちを育てる養成機関、強く団結し行動するコミュニティ、そして尼僧たちの象徴となる寺院を護ることで、「雑仕尼程度の扱い」だったとされる尼僧の地位を向上するべく活動していたことがうかがえる。

そのように多くの業績を残しながらも、世代が変わるとともに、資料も少なく、当事者も少なくなっていることから、その情報は薄れつつある。しかしその業績自体が失われた訳ではなく、形を変えながらも受け継がれていることがうかがえる。

しかし、調査を通して、単純な事実を追うことはできても、細やかな事情については判然としない部分も多いのが実情である。

今回、調査途上の部分について、今後も追跡調査を行いたいところではあるし、他方で、情報追跡の手段を今後に残すためにも、そして我々が先師たちから何を受け継いでいるのかというアイデンティティを失わないためにも、近代の先師たちに限らず、現代においても、写真、事績などのデジタルアーカイブを残していく必要性を強く感じる。

【参考文献】

- 日蓮宗寺院大鑑編集委員会編『日蓮宗寺院大鑑』池上本門寺 一九八一年
日蓮宗事典刊行委員会編『日蓮宗事典』日蓮宗宗務院 一九八一年
現代宗教研究所編『日蓮宗全女性教師アンケート報告書』日蓮宗宗務院 二〇〇四年
現代宗教研究所編『近代日蓮宗年表』日蓮宗宗務院 一九八一年

日蓮主義代理部『日蓮主義』第一三卷第一二号 日蓮宗宗務院 一九三九年

鈴木文雄編『さんげ』日蓮宗尼僧法団本部 一九六六年

谷川善妙編『真尼道』日蓮宗尼僧法団本部 一九八二年

尾谷卓一・梶山寛潮編『日蓮宗尼僧法団四十年のあゆみ 梶山日深上人の法功』ニチレン出版、一九九四年

馬島浄圭「近代教団史にみられる尼僧たち」―村雲尼公と尼僧法団を中心に―『現代宗教研究 第四〇号』三八〇―三八五

頁 日蓮宗現代宗教研究所 二〇〇六年

井之口有一他「尼門跡の言語環境について―尼門跡の言語生活の調査研究(二)―」『西京大学学術報告』西京大学 一九五八年

小野文瑠『昭和法華人列伝』国書刊行会 一九九三年

一 本稿ではあくまで年月と内容の掲載にとどめたい。出典などの詳細は『日蓮宗全女性教師アンケート報告書』を参照。
二 本稿ではその時代を問わず出家者及び教師の敬称を、あえて「上人」で統一する。

三 ほぼ同時期に教団史に登場する女性出家者として、養寿院お万の方(一五七七―一六五三)も挙げられるが、出家して養寿院と号したのは元和二年(一六一六)であるため、瑞龍院日秀の出家が先となる。

四 尼門跡は、皇女や宮家の王女、公家の息女が住職を務めた寺院。かつては比丘尼御所と呼ばれた。

五 『寺院大鑑』及び瑞龍寺ホームページ(<https://zuiryujinurakuno.com/origin>)より。歴代に記している年数は、晋山から退位

六 学林資料によると、実働は大正十二年からとみられる。

七 詳細の記述は控えるが、『日蓮宗事典』『瑞龍寺移転』や、当時の宗会議事録や宗務所長会議事録に詳しい。

八 『真尼道』八十二頁

九 『日蓮宗事典』『尼僧法団』

一〇 『真尼道』八十七頁